

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与 6		作成日		30年 6月 29日		
事務事業名		学校管理経費（小学校費）				シート作成部署				
総合計画上の位置付け	基本施策	3 心豊かなまち				課名	学校教育課		係名	
		3-1 生涯学びのあるまちをつくる				シート作成者				
	施策	3-1-1 幼児教育・学校教育の充実				予算費目	会計		一般	
							款		10	
主要施策	③ 学校教育環境の条件整備				項		2			
	④ 特別支援教育の推進				目		1			
個別計画名										
住民との関わり		特になし								
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）			目的（どういう状態にしたいのか）						
	特別な教育的支援が必要な児童			一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行い、生活や学習上の困難を改善又は克服できるようにする。						
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）									
①【臨時職員賃金】算数、数学を中心に少人数指導（チームティーチング、習熟度別指導等）を可能にする講師を配置する。そして、児童一人ひとりに対し、きめ細やかな指導を行い着実な学力の定着を図る。 ②【学習支援員活用事業】特別支援学級に在籍する児童と通常学級に在籍し個別支援が必要な児童に対し、学習支援員を配置する。そして、担任や特別支援教育コーディネーター、保護者等と連携しながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。										
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input checked="" type="checkbox"/> 18年度 ~ 平成 年度（年間） <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし								
根拠法令・要綱等										
		平成28年度（決算）		平成29年度（決算）		平成30年度（予算）				
全体事業費（千円）A+B		51,202		52,966		60,451				
財源内訳	国庫支出金		0		0		0			
	県支出金		0		0		0			
	地方債		0		0		0			
	その他特定財源		0		0		0			
	一般財源		51,004		52,768		60,253			
直接事業費（千円）A		51,004		52,768		60,253				
人件費（千円）B		198		198		198				
内訳	一般職員（人・千円）		0.03 人 198		0.03 人 198		0.03 人 198			
	臨時職員（人・千円）		人 0		人 0		人 0			
成果指標	成果指標名			単位	29年度		30年度	31年度		
					目標	実績	（目標）	（目標）		
	①									
	②									
③										
説明		特別支援教育の対象者は年度ごとに変化する。また、個々の伸びや改善具合を年度末に個別に何らかの形で示すことはできても、事業全体としての指標を設定することは困難である。								

事業名		学校管理経費（小学校費）			シート作成課		学校教育課	
一次評価者		学校教育課長			二次評価者		教育委員会事務局長	
評価項目の説明	チェック項目				一次	二次	一次の評価又は説明	
	必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	多種多様な課題を抱える児童が増えています。一人ひとりに合った個別の支援を担任だけでなく、複数の教職員等と一緒に考え、チームで行うきめ細やかな教育が必要不可欠です。  一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援ができ、極めて有効です。  各学校で児童の状況に応じた個別の指導計画のもと活用しており、一人ひとりの支援につながっており、支援級から通常級へ転籍できるようになった児童もいます。少人数指導の成果として高い学力も維持しております。  効率性を判断することは困難です。
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>本事務事業の実施適切性の説明</b>								
どの学校にも多数の支援が必要な児童生徒がおり、特別支援教育の推進に学習支援員は欠かせません。また、少人数指導の成果も上がってきておりますので、少人数指導ができる臨時職員も欠かせません。								
一次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価		
		4	4	4	4	(8) B	(8) A	
						(7) D	(8) C	(8)
今後の方針	休・廃止		見直し		継続		拡大	
今後の改革・改善目標	PDCAサイクルを回しながら成果と課題を明らかにします。その上でより有効な活用ができるよう、発達支援室と連携したり、指導主事を活用したりします。							
二次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価		
		4	4	4	4	(8) B	(8) A	
						(7) D	(8) C	(8)
今後の方針	休・廃止		見直し		継続		拡大	
コメント	学習支援員等の人材確保が重要です。予算が限られているため、本当に必要なところに配置できるよう指導していきます。							
二次評価に対する課の考え方								
参画協働の今後の方針	いつから	平成	年度から	1 現在の手段を継続する				